

町長室から

今年も

「ふるさと会」が帯広、札幌、東京で行われました。

それぞれ回を重ねて60年、40年、30年を迎えています。いつも故郷の応援団として、ふるさと納税にご協力をしていただき、皆さんで「ふるさとのみり祭り」にも参加していただくなど、お気遣いをいただいております。が、やはり新たな会員が増えていかないとの悩みもお持ちのようです。

町民の皆さんでお知り合いの方がいれば「ふるさと会」があるよ、参加してみませんか」と教えてもらいたいとの希望を承りました。

今年3月に、ヤフーとロート製菓の若手社員が「通算10ヶ月間の旧常室小跡地の常室ラボでワークショップを行い5つの提案をしていただきました」とお知らせしましたが、その成果として若手社員と町民の出資により新会社が立ち上がりました。ワークショップの中で50年かけて育てた木が数千円にしかな

らないという現実から、首都圏では古民家風の建築物が見直されているという話につながり、素材を古材風に加工した建材を売り出そうという発想に発展して、加工機械は京都府立大学と共同開発して企業化に結びつけました。

若者にバトンを受け継いでもらいたいという気持ちを込めて、名前を「バトンプラス」としたそうです。

常室ラボ内に本社を置き生産も行いますが、販売は大都市圏をターゲットにしています。

ヤフーの若手社員で「このミステリーがすごい」大賞を受賞され、香取慎吾氏主演でドラマ化もされた「一千兆円の身代金」の作者、八木圭一氏も別のグループでワークショップに参加していますが、この度『北海道オーロラ町の事件簿』という新作品を発表しました。

町の名前も浦幌町と陸別町からとって陸浦町としており登場人物に浦幌町在住の人物名が多数登場します。

もちろん架空の話であり、先日行った懇談の席で名前を使われた方から何で俺がそんな役なんだと冗談で抗議もありました。ドラマ化されたら出演のオファーがあるのでしょうか。

また、若者や移住候補者を対象に町内で地域滞在型人材研修を実施して、浦幌町での新しい働き方、暮らしのきっかけを作る機会を提供する「ラーニングジャーニー」で全国各地から募集した大学生から4つの提案をいただいております。その1つとして、これまで「シエフィンレジデンス」などを実施してきましたが、このたび地域おこし協力隊を退任した三村君がなんとなく生きづらさを感じている人に地域で生きる選択肢を提案する「KIZUKI（気づき）」という会社を立ち上げてラーニングジャーニーを引き続き行うと同時に「常室カフェ」を正式にオープンさせました。

旬の野菜のワンプレートランチとスイーツとこだわりのコーヒーを提供し、火・水・木曜日は

休みですが週末・月曜日は営業していますので、町民の皆さんにもご利用いただければと思います。

さらに、常室ラボには徳島県神山町の株式会社レイシヨン浦幌支社も開業を予定されています。

新たな企業化はハマナスを利用したオーガニック化粧品会社以来でありますが、子供たちの受け皿としても期待されます。

さらに、「北海道クローズアップ」(NHK)のテーマ曲として半崎美子さんが作詞作曲し歌う『明日を拓こう』で作られたミュージックビデオは浦幌町立診療所の榊原先生の息子さんが作られた作品で、澄み透った歌声とともに浦幌町の風景と人が全面的に流れます。

ネットから検索してユーザーで見られますので、是非ご覧いただきたいと思います。

浦幌町長 水澤一廣